

12	小	国 213
二	葉	

# この本

教育部  
資料室  
新教育部  
実践研究所編  
文部省検定教科書

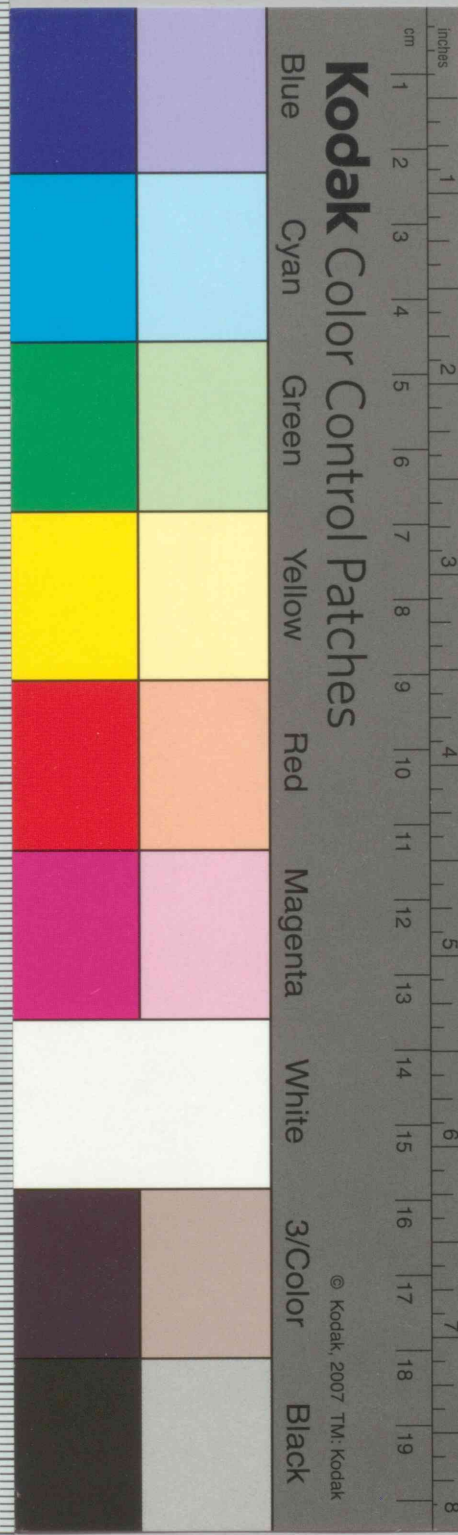


小KC  
F97

3

二年上

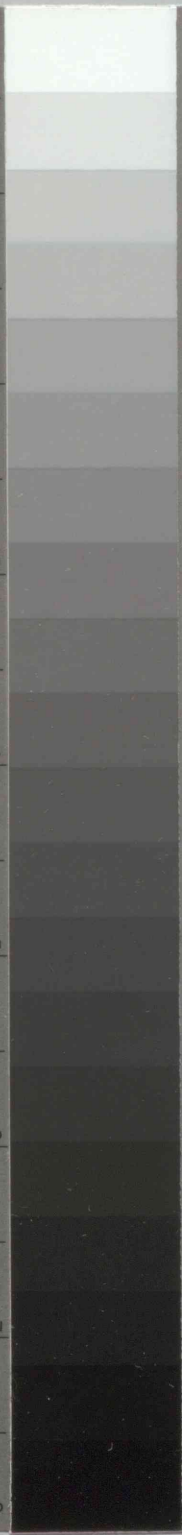
教  
34  
013



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak



60134

教科書文庫

6
810
34-1949
01304
49964



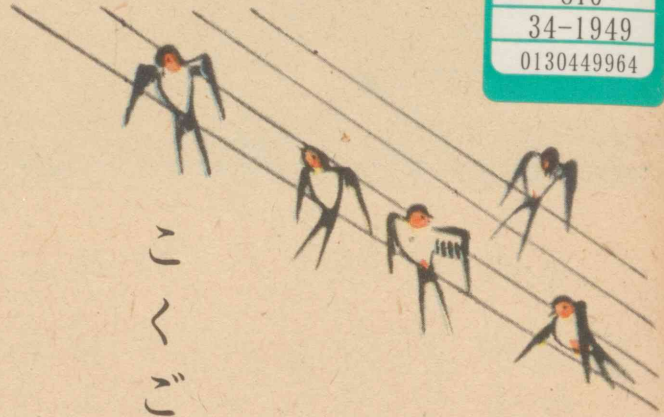


寄 贈

教科書文庫
6
810
34-1949
0130449964

中央図書館

昭和二十四年十月十日  
文部省検定済  
小学校国語科用

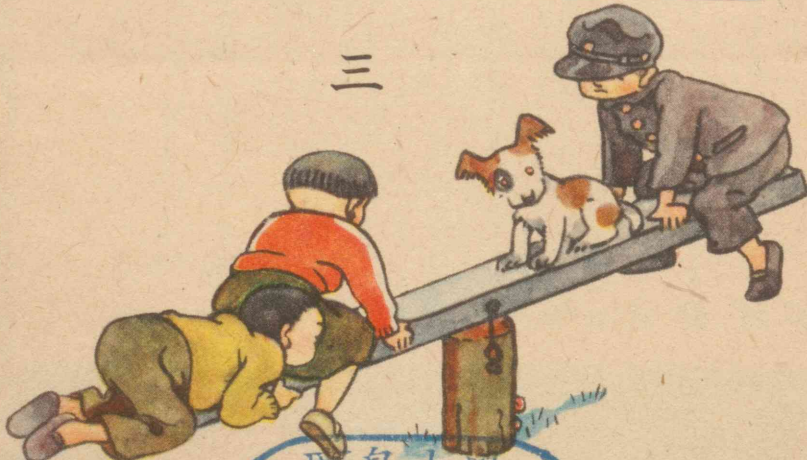


こくごの本三

第二学年 上

広島大学図書

0130449964

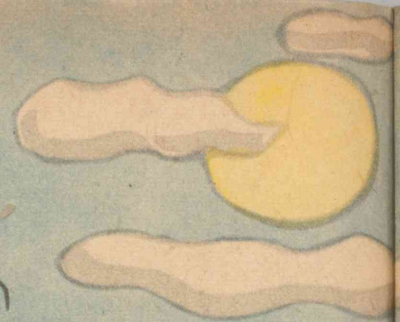
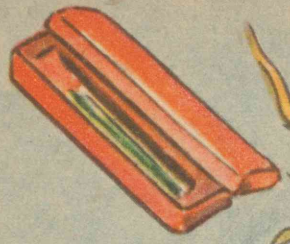


広島大学  
教育学部図書

広島大学図書

0130449964





もくろく

一 うれしい 二年生..... (4)

二 わたくしたちの まち..... (12)

三 おまわりさんの 話..... (19)

四 子どもの 日..... (28)

(一) 子どもかい..... (28)

(二) 白い つばめ..... (33)

(三) せいぐらへ..... (37)

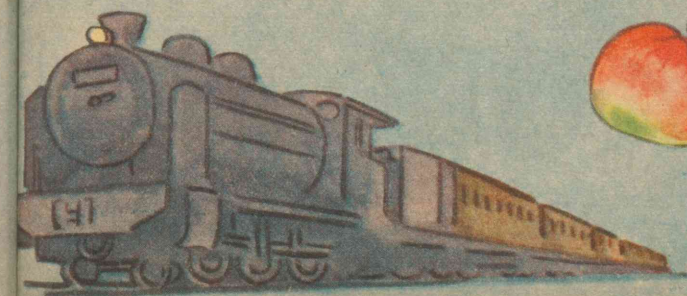
五 どうぶつえん..... (41)

(一) どうぶつ の え本..... (41)

(二) どうぶつえん..... (45)

六 かもめの ふなで..... (54)

七 にわとり..... (61)



(二) トロッコ..... (62)

(三) なえどり..... (64)

八 田うえ..... (66)

九 よぼうちゅうしゃ..... (70)

十 なかよしポスト..... (80)

十一 なつやすみに なったら..... (87)

十二 おむかえ..... (95)

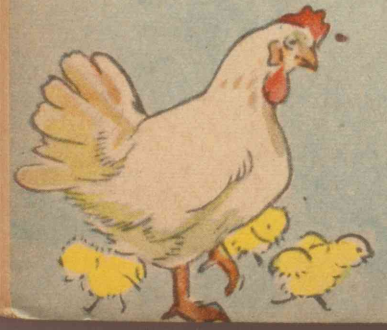
十三 とべた 子すずめ..... (102)

おけいこの 手びき..... (114)

五十おん..... (117)

あたらしく 出た おもな ことば..... (118)

かんじ..... (120)







一 うれしい 二年生

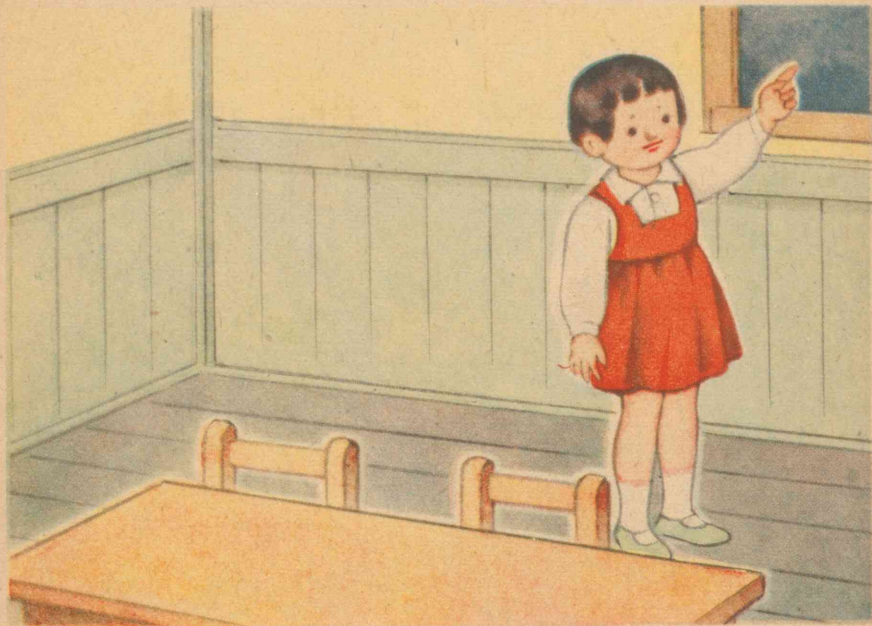
「あきらさん、おはよう。」  
 「ちよ子さん、おはよう。」  
 学校のまえで、ふたり  
 は げんきよく あいさつ  
 しました。

あきらさんたちは、きよ  
 うから 二年生です。

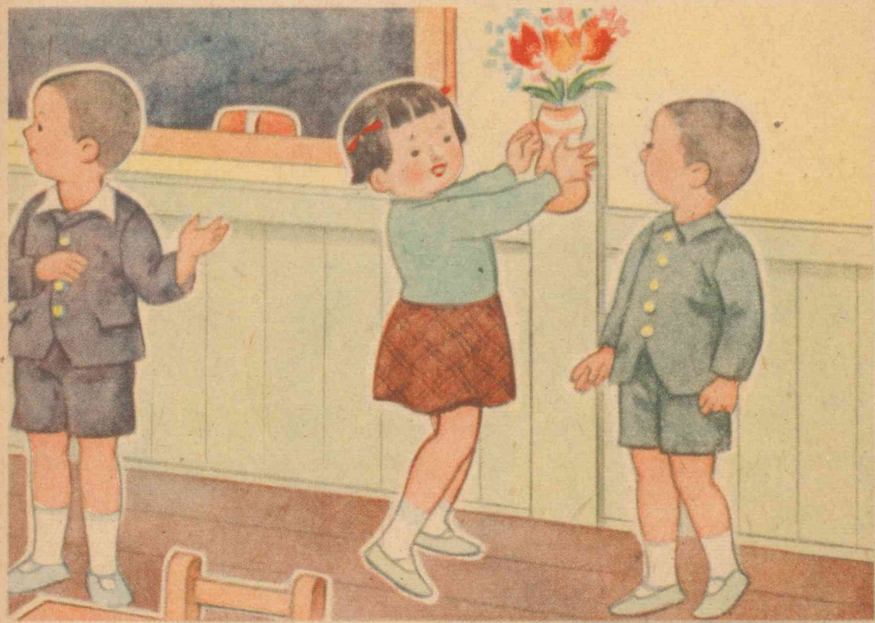
ふたりは、はなしながら  
 きょうしつの ほうへ あ  
 るいて いきました。  
 しげるさんたちが、まど  
 から 手を ふって、  
 「あきらさん、ここだよ。」  
 「ちよ子さん、はやくい  
 らっしゃいよう。」  
 とよびました。  
 あきらさんたちは、いそ







が しました。  
 「みんなで、きょうしつを  
 かざろうよ。」  
 と、あきらさんが いいま  
 した。  
 「うしろの こくばんに、  
 えや おはなしを かき  
 ましょう。」  
 と、ちよ子さんが いいま  
 した。



いで 二年生の きょうし  
 つに はいりました。つく  
 えも こしかけも、一年生  
 の ときより 高いのが  
 ならんで いました。  
 はるえさんが はいって  
 きて、もって きた 花を  
 かびんに さしました。  
 きゆうに、あたりが き  
 れいになったような き





「カレンダーをつくったり、ポストをこしらえたりするといいね。」  
 と、しげるさんもいいました。  
 そのとき、先生が戸をあけてはいつていらっしやいました。先生もここにこして、とてもうれしそうです。



「先生、おはようございます。」  
 みんな大きな声で、あいさつをしました。  
 「おはよう。」  
 先生はわらいながら、みんなのかおを、ごらんになりました。  
 まどのそとを一年生が、おとうさんやおかあ



さんに手をひかれて、ぞろぞろあ  
るいてきます。

「あ、先生、一年生  
がきましたよ。」

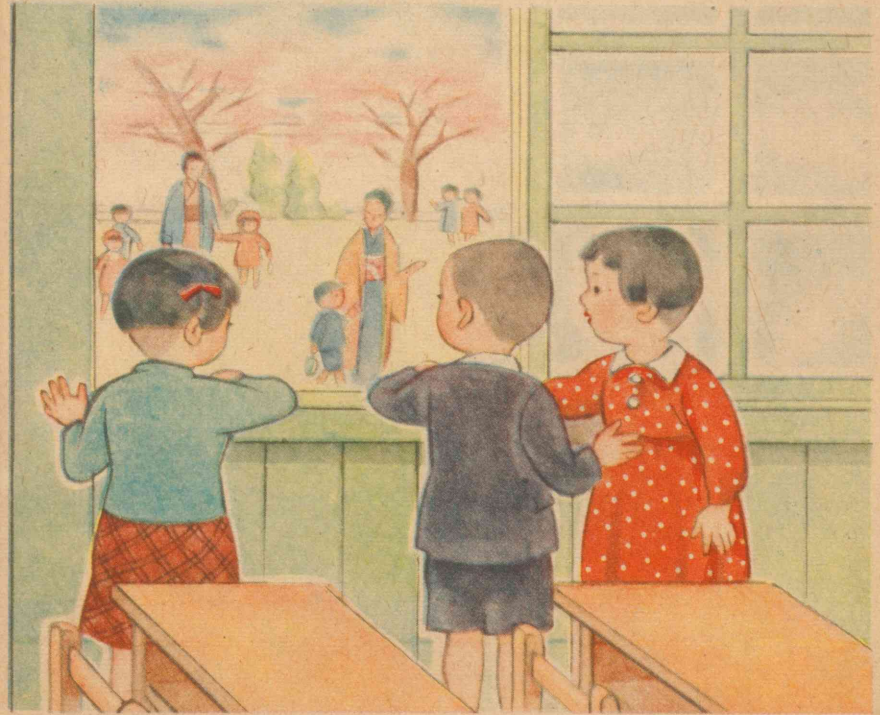
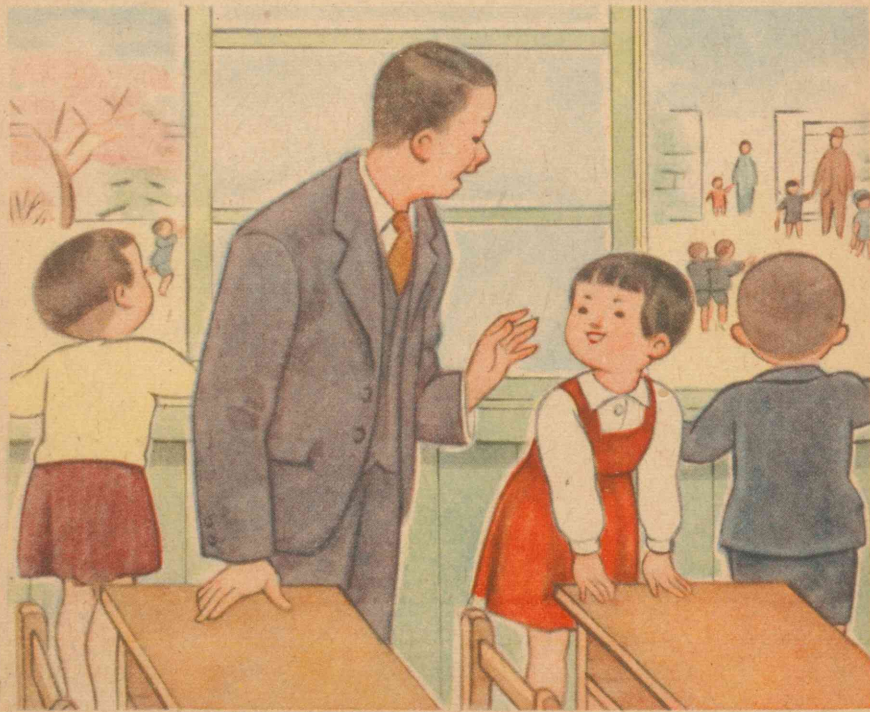
と、ちよ子さんが  
いいました。

先生は、

「さあ、みなさんは  
いよいよ二年生

ですよ。げんきで、  
なかよくべんきよ  
うしましょう。」  
とおっしゃいまし  
た。

春風がそよそよ  
と、きもちよくま  
どからふいてき  
ました。





二 わたくしたちの まち



「ぼく、一ばん。  
と いいながら、しげるさん  
んが、うれしそうに きよ  
うしつへ、はいつて きま  
した。

「わたし、二ばんよ。  
つづいて、ちよ予さんが

はいつて ききました。

「なあんだ。ぼく、また

三ばんか。」

と いいながら、あきらさん  
んが はいつて ききました。

そのうちに、みんなが  
きたので、きょうしつは

にぎやかに なりました。

「ぼくは、けさ 一ばん 早かったよ。」

しげるさんが とくいそうに  
いうと、きよしさんが、



「早い わけだよ。うちが ちかいんだもの。」  
「きみだって ちかいじゃ ないか。ぼくと おなじ  
くらいだよ。」

「ちがうよ。きみの ほうが  
ずっと ちかいよ。ぼくの  
うちは、さかを おりて、  
やくばの まえを まがっ  
て、それから もっと い  
くんだよ。」

「ぼくだって、学校の まえ

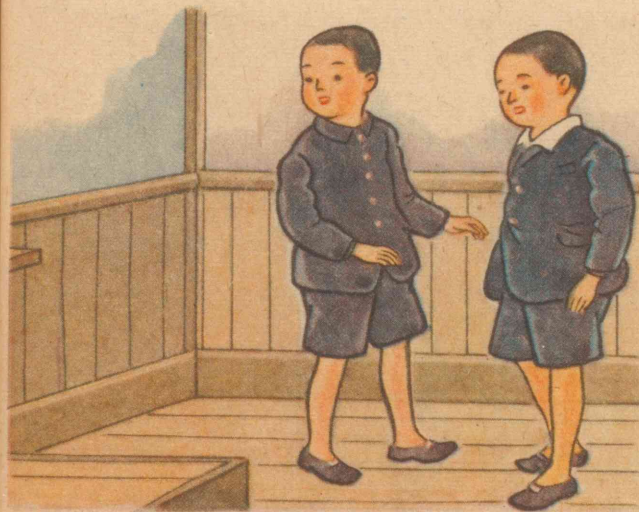
の 長い 道を ずっと

いって、ゆうびんきよくの  
よこを まがって、それが  
ら よこちようへ はいる  
んだよ。」

ふたりが いいあって い

ると、そばで 先生が おききになつて、

「なかなか おもしろいね。ふたりとも、やくばや ゆ  
うびんきよくが あつて、よい 目じるしになるね。」  
とおっしゃいました。







くしたちのまちをきよ  
うしつの中に作って  
みましよう。そのまえに、  
まちのようすをよく  
みてきましよう。」  
とおっしゃいました。  
みんな大よろこびで、先  
生といっしょにまちを  
しらべてあるきました。  
大どおりの大きなたて



と いいました。  
先生は にこにこしながら、  
「たいへん いい ことに  
きが つきました。えきも  
こうばんも 入れて、『わた

すると あきらさんが、  
「ぼくの うちは 火のみやぐらの そばです。学校を  
まん中に して、やくばや、ゆうびんきよくや、火の  
みやぐらを 作って、ならべて みると おもしろい  
でしょうね。」



ものや、道の  
ようすがよく  
わかりました。  
それから、長  
いあいだかかっ  
て、とうとう  
「わたくしたちの  
まち」が、りっぱ  
にできあがり  
ました。



### 三 おまわりさんの話

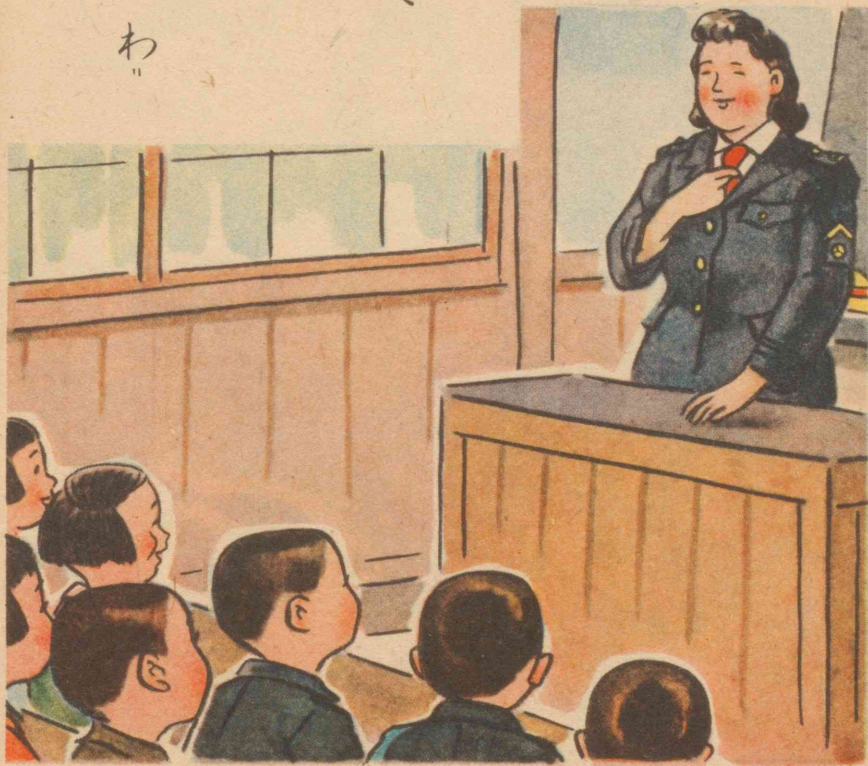
きょう 学校へ、まちの けいさつから おんなの  
おまわりさんが きて、お話を して くれました。

おまわりさんは にこにこしながら、  
「みなさん、こんにちは。わたくしは、きょうから み  
なさんと、なかよしに なろうと 思って まいりま  
した。」

おまわりさんでも、おんなの おまわりさんは「ぼう」



も もって い  
 ません。ピスト  
 ルも もって  
 いません。たっ  
 た 一つ、赤い  
 ネクタイを つけて  
 いるだけです。  
 と いいました。  
 みんなは、どっと わ  
 らいました。

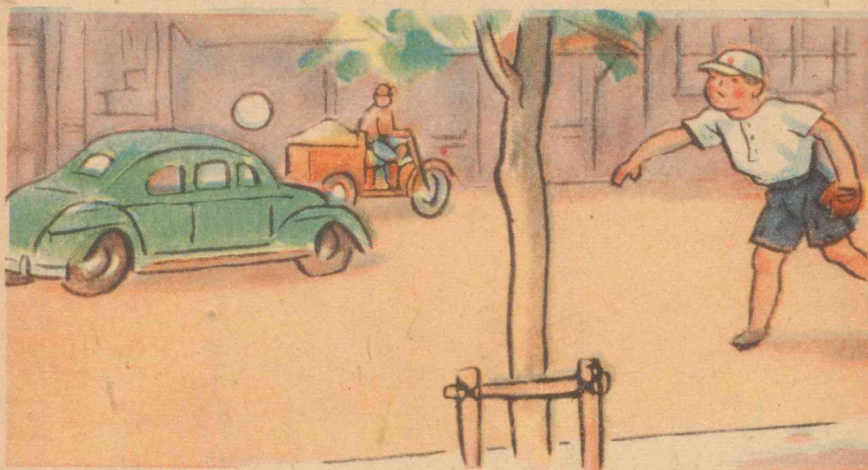


「これから お話を しますから、あとで よく かん  
 がえて くださいね。」  
 と いって、おまわりさんは、つぎのような お話を  
 しました。

学校から かえった ごろちゃん、さぶちゃん、よっ  
 ちゃんの 三人が、大どおりで やきゅうを して い  
 ました。

ごろちゃんが ピッチャー。  
 さぶちゃんが キャッチャー。





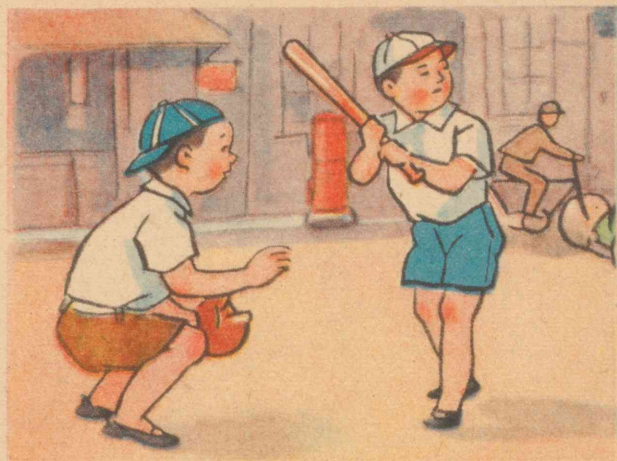
よっちゃんがバッター。  
 ごろちゃんが、ボールをなげ  
 ました。

「ストライク。」

キャッチャーのさぶちゃんが、  
 大きな声で「いいました。」

「高い高い。いまのはボール  
 だよ。」

バッターのよっちゃんは、口  
 をどがらせて「いいました。」



「いいよ、いいよ。では、ボール  
 にするよ。」

と、ごろちゃんが「いいました。」

三人は、むちゆうになって  
 あそんで「いいました。」

そのうちに、ごろちゃんのな  
 げたボールがはずれて、ころ  
 ころと道のまん中へころが

りだしました。

さぶちゃんとよっちゃんは、ボールを  
 おいにかけて



とびだしました。

そのとき、

「あぶないっ。」

と、大声がしました。

ギー、ギーッ。

にもつをつんだトラッ

クが、きゆうにとまりま

した。

さぶちゃんとよっちゃん

んはおどろいて、トラッ

クのすぐそばにたおれました。

トラックのおじさんは、

「あぶない、あぶない。もうすこしで、ひいてしま

うところだった。」

と、いいながら、車の中からとびだしてきました。

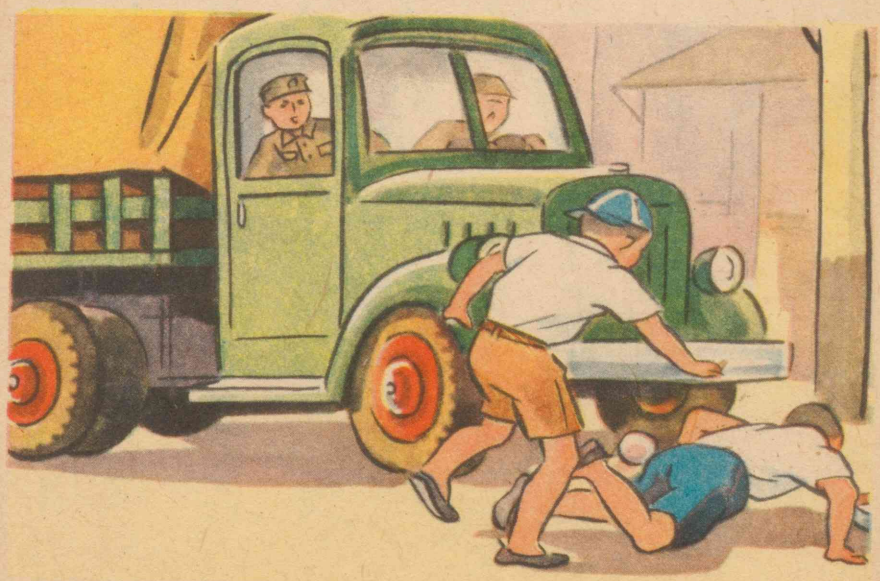
「どうだね。けがはなかったかね。」

おじさんは、いそいでふたりをだきおこしました。

下じきになったと思ったりふたりは、手をすこ

しすりむいたただけでした。

ほうぼうから、人が大ぜいかけてきました。







さぶちゃんも よっちゃんも、  
わあっと なきだしました。

「よかった、よかった。もうす  
こしで、たいへんな ことに  
なる ところだった。」

と、あつまった 人たちは いい  
ました。

そばに いた ごろちゃんは、  
むねが ときどきして、なんだか  
こわくて たまりませんでした。

「みなさん、さぶちゃんと よっちゃんは、大けがで  
なくて よかったですね。もし、トラックに ひかれ  
たら どうでしょう。これから、よく 気を つけて  
あそびましょね。」

わたくしの お話は、これで おしまいです。  
みんなは、パチパチと 手を たたきました。

「あぶなかったねえ。」  
「でも、よかったわねえ。」

と、あきらさんたちは 話しあいました。



四 子どもの日

(一) 子どもかい

五月五日は 子どもの日です。あきらさんたちは、にいさんや ねえさんたちと いっしょに、子どもかいを ひらく ことに しました。



ました。ばしよは あきらさんの うちです。おかあさんがたも あつまって、ごちそうを つくって くださいました。



はじまりは ごご ーじ ですが、みんなは あさから あつまって、いろいろな よういを しました。げきの けいこを する ものや、お話の けいこを する ものも あります。





ねえさんが、紙の はこを  
作って、しげるさんが、それ  
にクレヨンで、「たまたまはこ」  
と 書きました。

たまたまはこの 中には、み  
んなの する ことを、紙に  
書いて いれました。

いよいよ かいが はじま  
りました。

あきらさんが、おかあさんがたの まえに 立った  
とき、おかあさんがたは、パチパチと 手を たたきま  
した。

「これから、子どもかいを ひらきます。」

あきらさんの かおが、すこし 赤く なりました。

つぎに ねえさんが、たまたまはこを もって きました。

「これは、子どもかいの たまたまはこです。この 中に、  
いろいろ おもしろい ものが はいって います。

さあ、なにが 出て くるでしょう。」

しげるさんの おかあさんが、





「うらしまたろうのように、白  
いけむりが出て、しらが  
のおばあさんになったら  
どうしましう。」  
と いったので、みんながどつ  
と わらいました。  
あきらさんがはこのふた  
をあけて、一まいの紙を  
とり出しました。そして、「う  
さぎのダンス、みつ子さん。」

と 読みあげました。

みつさんは、じょうずに うさぎのダンスを  
しました。

みんな手をたたいてほめました。

そのつぎは、ねえさんとよしさんの、「白  
つばめ」です。

(三) 白いつばめ

よしさんは、がようしと はさみをもち、ねえさ  
んは ちようめんを もって、 ならんで 立ちました。



よし子さんが、がようし  
で つばめを 作りはじめ  
ました。

ねえさんは、それに あ  
わせて、書いた ものを  
読みはじめました。

「つばめの おかあさん  
よし子さん、やさしい  
やさしい おかあさん。  
これから つばめを 作  
ります。



つばめの たまごは 白い 紙、紙を おったり た  
んだり、うらに かえして また おって、これが  
ら はさみの さいくです。

つばめの おかあさん よし子さん、つばめ作りが  
じょうずです。チヨキ チヨキ はさみを つかいま  
す。おやおや はねが できました。こんどは 長い  
おが できて、白い つばめに なりました。

白い つばめは なかないで、すんだ 青空 みて  
います。『空は ひろいな、とびたいな。』つばめの 子





どもは ねだります。やさしい つばめの おかあさん、『いいよ、いいよ。』と うなずいて、これから つばめを とばします。よし子さんは えんがわに 出て、青い 空に むかって つばめを とばしました。よし子さんの つばめは、すいすいと とびました。

とちゅうで ちゅうがえりを して、もみじの えだに とまりました。

おかあさんがたは、また 手を たたいて ほめました。

(三) せいくらべ

こんどは、にいさんたちの「せいくらべ」です。

のぼるさんと、たかしさんと、つよしさんの 三人が、

みんなの まえに ならびました。

三人とも、せいの 高さが おなじでした。

きゅうに、のぼるさんが、せのびしました。



すると、たかしさん

も せのびしました。

つづいて つよしさん

も せのびしました。

三人は、また おな

じ 高さに なりまし

た。おかあさんがたは

どっと わらいました。

三人は、せのびを

しても やっぱり お

なじ 高さです。

たかし「ぼくは たかしだから、ぐんぐん せいが 高く

なります。」

のぼる「ぼくは のぼるだから、どんどん のびて いき

ます。」

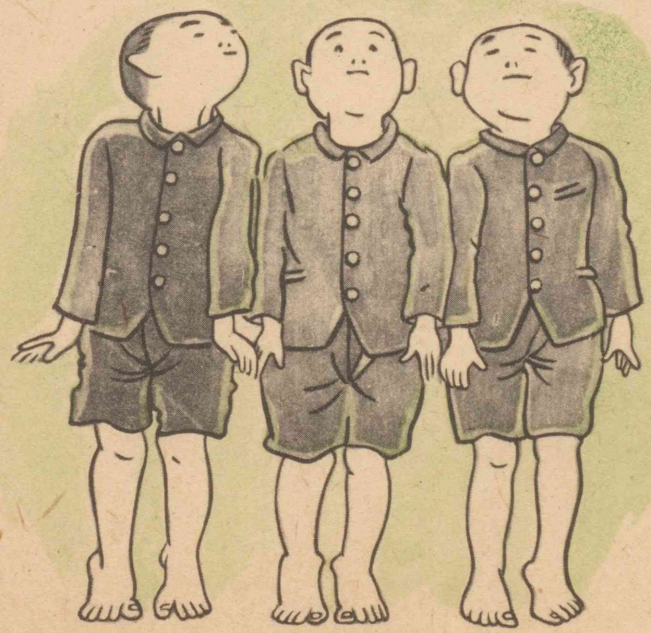
つよし「ぼくは つよしだから、うんと つよく なります。」

三人は 手を くみあって、

三人「らいねんの 子どもの 日には、みんな どの

くらい のびて いるだらうね。」

と いいました。







それから、おもしろい お話や げきが ありました。  
 みんなで、子どもの 日の うたも うたいました。

おしまい に たまてばこから 出て きたのは、きれいな 赤い 花でした。

これは、おかあさんがたに あげる ために、みんな で 作ったのです。

おかあさんがたは にこにこしながら、むねに つけました。そして、ごちそうを はこんで きて ください いました。

みんな そろって、たのしく たべました。

五 どうぶつえん

(一) どうぶつ の え本

ちよ子さんが、どうぶつ の え本を もって きました。 みんな なかよく、まるく なって みました。  
 一ばん はじめは ぞうです。



四かくな だいに のって、  
げいを して います。

あきらさんが、

「やあ、おもしろい。ぞう」

の きよくげいだ。」

と いったので、みんなが  
わらいました。

つきは、ライオンです。

おりの 中で、

「ぼくは、けものの おう」

さまだ。」

と いった、いばって い  
ます。

とらも、くまも、さるも、

しかも、かいて あります。

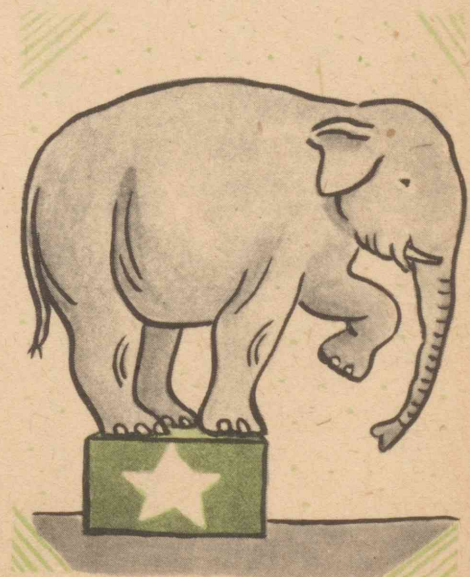
せいの 高い きりんや、

せなかに こぶの ある

らくだも、かいて あります。

みんなは おもしろいので、

「その つぎは なに。その





つぎは なに。」

と いった、せきたてます。

そのうちに、あきらさんが、

「どうぶつえんへ 行って、ほんとに あそんで いる

ところを みたいなあ。」

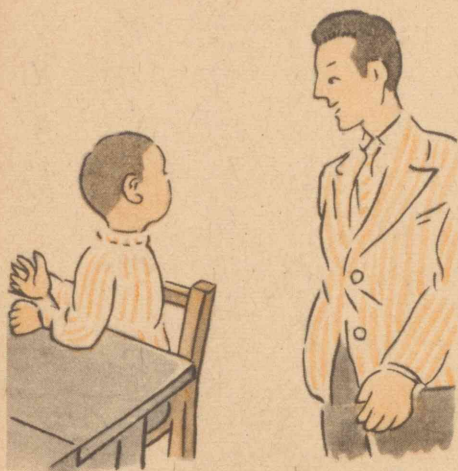
と いました。しげるさんが、

「ぼく、ぞうが みたいなあ。」

と いうと、ちよ子さんが、

「わたしは、きりんが みたいわ。」

と いました。



先生が、そばから、

「では、こんどの えんそくは、

どうぶつえんへ いく ことに

しましょう。」

と おっしゃいました。

みんなは、わあっと 行って

よろこびました。



(二) どうぶつえん

これは、あきらさんの 書いた 作文です。



どうぶつえんへ えんそくに いきました。よその  
学校の お友だちも、大ぜい きて いました。おかあ  
さんに 手を ひかれた  
小さい 子どもも、たくさ  
ん いました。

はじめに、くじやくを  
みました。くじやくが、長  
い おを 大きく ひろげ  
たので、みんな 手を た

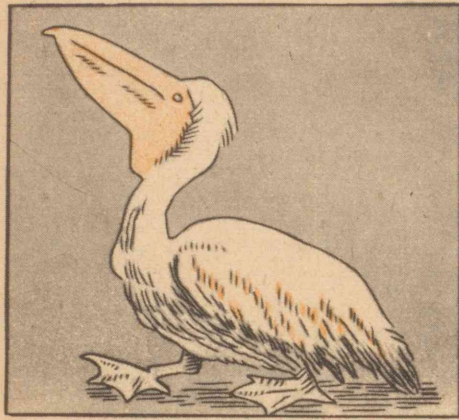


たいて よろこびました。  
アメリカから きた 小さな  
あらいぐまを みました。もの  
を たべる ときは、きつと  
手を あらうそうです。

ぞうも ライオンも いませんでした。ライオンの  
もと いた おりの 中には、かわいい 子ぶたが た  
くさん いました。

それから、さるの おりの まえに いきました。さ  
るは、おいかけっこを したり、ぶらんこに のったり、





ひるねを したり して い  
ました。

おかあさんぎるは、子ぎる”

を だいて、おちちを のま”

せて いました。とても か”

わいいと 思いました。

かなあみ”

を はった

とりごやには、いろいろな とりが

たくさん いました。



かもも いました。あひるも”

いました。つるも いました。

つるは、えさを たべる と”

き、じょうずに あらって た

べます。

ペリカンは、大きな ふくろのよ”

うな くちばしを うごかして、ぼ”

くたちを じっと みて いました。

まもなく、先生が、

「さあ、おながが すいたでしょう。」



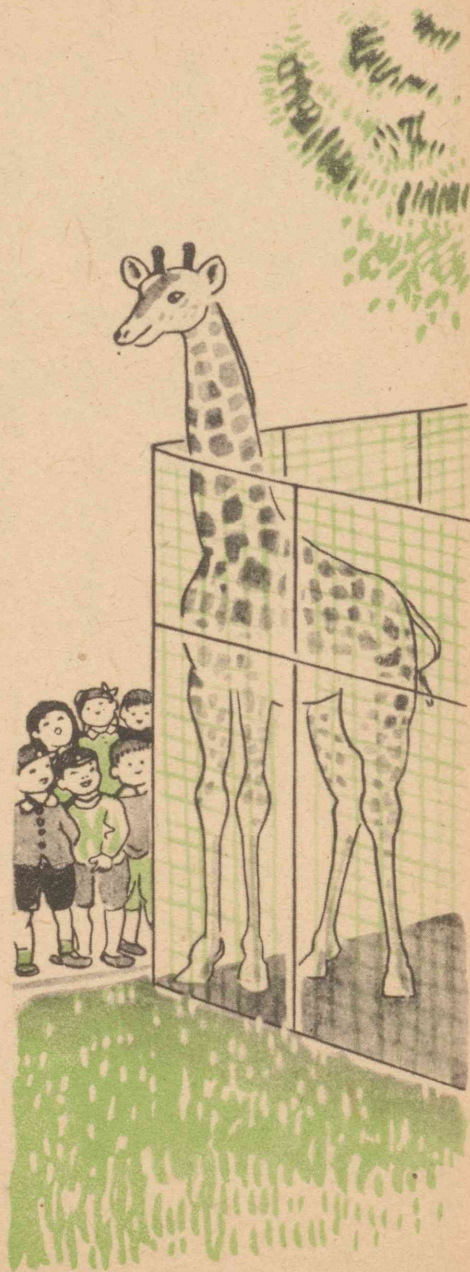
おべんとうに しまじょう。手を あらわないと あ  
らいぐまに わらわれますよ。」  
と おっしやいました。

みんなは、わあっと わらいました。

手を あらって おべんとうを たべました。とても  
おいしい おべんとうでした。

紙くずや おべんとうのからは、みんなで ひろっ  
て 紙くずばこに いれました。

ひろから、きりん、カンガルーと、らくだを みま  
した。



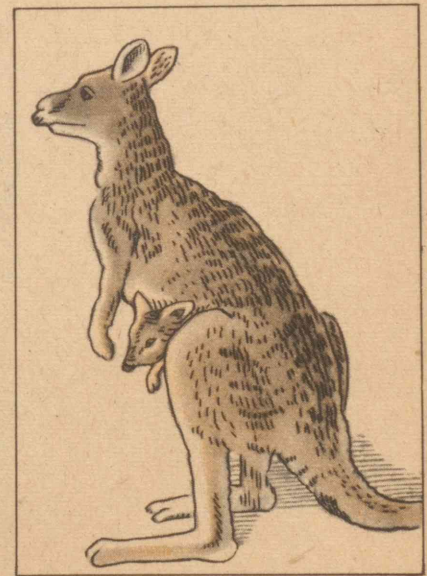
せいたかのっぱの きりんは、かなあみの中でのっ  
しのっしと あるいて いました。

ときどき ちかよって きて、長い くびを かなあ  
みの 上から 出します。



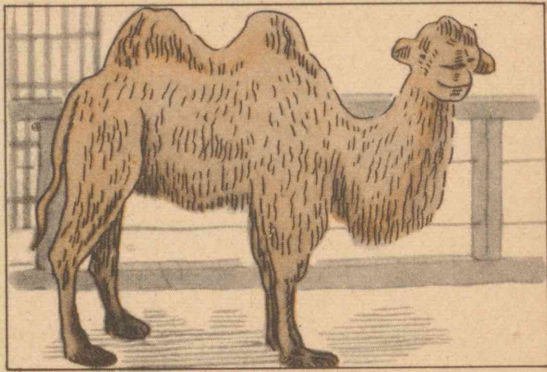
カンガル―は、あかちゃ  
んを おなかの ふくろに  
いれて いました。

小さい まえあしを あ  
げて、長い あとあしで  
ピヨン ピヨンと とびます。



先生が、わらいながら、  
「カンガル―は、はばとびの  
と、おっしゃいました。  
せんしゅだね。」

らくだは、せなかに 大きな こぶが 二つ あります。



あるく たびに、あしの うらが ひ  
ろがります。これは、すなはらを あ  
るくの に つごうよく できて いる  
のだそうです。

だんだん あるいて いくと、いつ  
の まにか どうぶつえんの もんの  
ところへ 出ました。

みんなで、どうぶつえんの おじさんに、  
「どうも ありがとう。」  
と、あいさつを して かえりました。

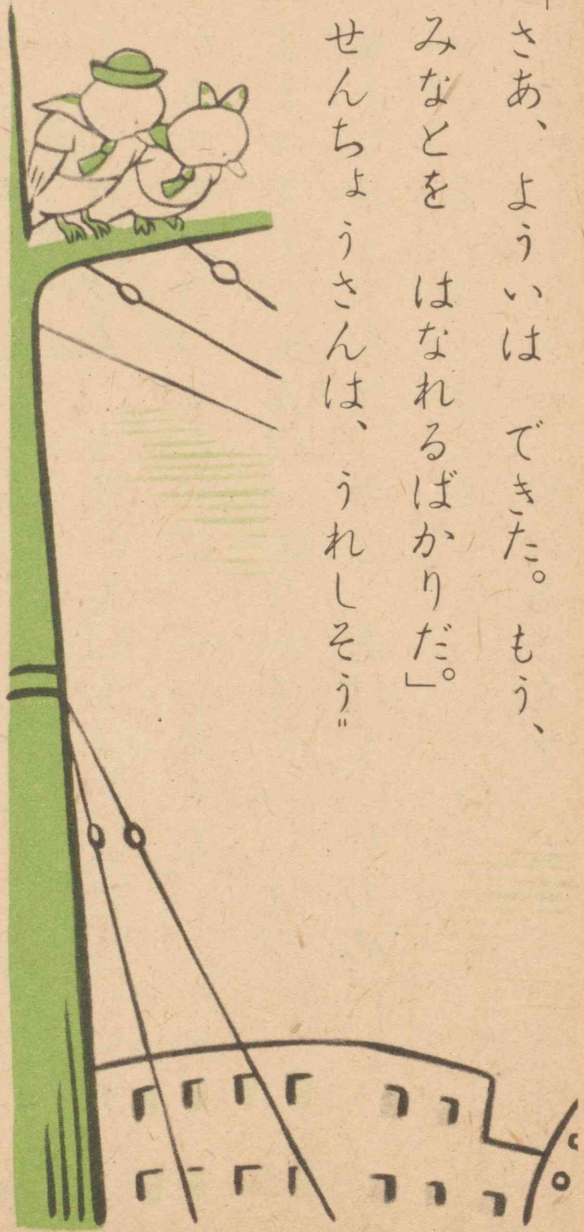


六 かもめの ふなで

みなとです。日本の みなとです。白い 大きな ふな  
ねが、いかりを おろして いました。ふねの まるい  
まどから、青い 目の すい  
ふさんが わらって います。  
パイプを くわえた せん  
ちようさんが、やって きま  
した。



「さあ、よういは できた。もう、  
みなとを はなれるばかりだ。」  
せんちようさんは、うれしそう



に マストを みながら いました。  
「やあ、おまえたち、もう ふねに のって いるのかい。  
高い マストの 上に、二枚の かもめが とまって



いました。

かもめの きょうだいです。白い すいへいふくが  
にあります。

「せんちようさん、まだ おかあさんが おくりに き  
て くれません。もう しばらく まって ください。」  
かもめの きょうだいは いいました。

「よし、よし。しんぱいしないで いいよ。」

せんちようさんは 手を あげて、かもめの きょう  
だいに あいずしました。

そこへ、かもめの おかあさんが とんで きました。

「せんちようさん、子どもが いろいろ おせわに な  
る ことでしょう。よろしく おねがい いたします。」

「よし、よし。しんぱい いらないよ。」

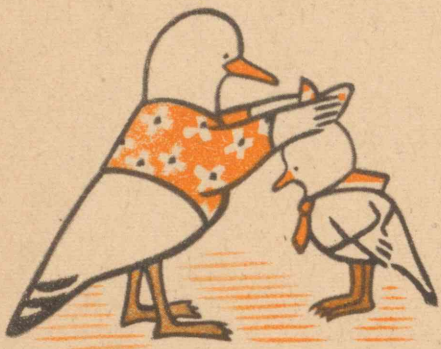
かもめの きょうだいは、せんちようさんの そばへ

とんで いきました。かもめの お

かあさんは、いもうとかもめの リ

ボンを むすんで やりながら、

「海の上では、せんちようさんや  
にいさんの いうことを よく  
きくんですよ。」





「はい。」

かもめの おかあさんは、にいき  
んかもめの ぼうしを なおして  
やりながら、

「ねびえに きを つけて、おなか  
を こわさない ようにね。」  
「はい。」

それから かもめの きょうだい は、声を そろえて  
いきました。

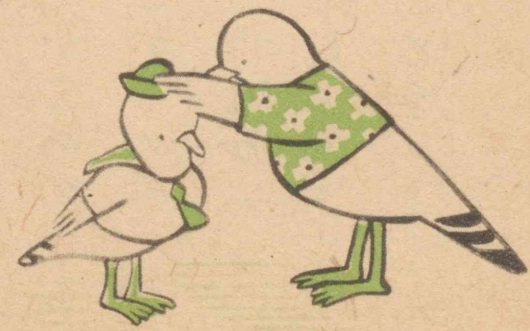
「アメリカへ いったら、なにを おみやげに かって  
きましようか。」

「いえ、いえ。おかあさんへの おみやげは、おまえた  
ちが りっぱな かもめになつて、かえつて きて  
くれる ことです。アメリカの かもめに わらわれ  
ないように して おいで。」

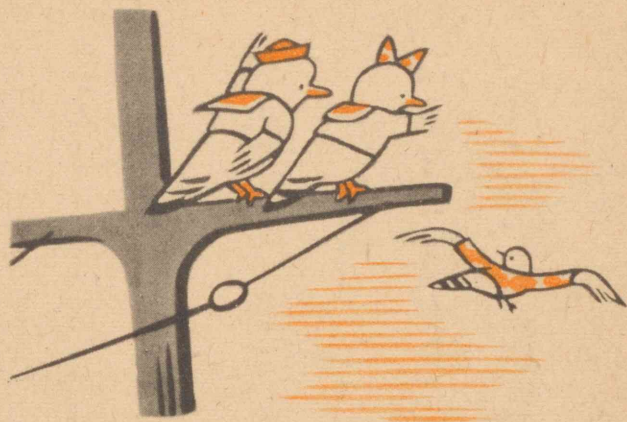
せんちょうさんが せんちょうしつへ はいると、き  
てきが ボーツと なりました。

大きな えんとつから、黒い けむりが のぼります。  
「それでは 行って おいで。げんきでね。」

かもめの おかあさんは、高い マストの 上を ま







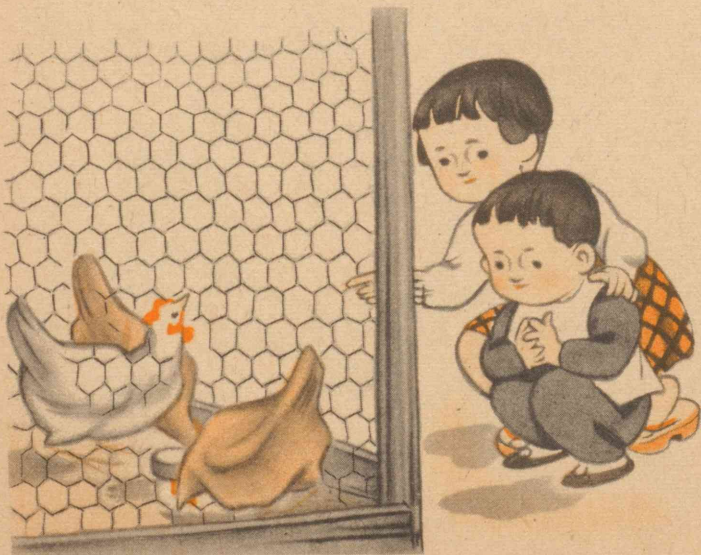
るく わのように とんでから、み  
 などの やねの ほうへ とんで  
 いきました。  
 「おかあさん、いって きます。  
 かもめの きょうだいは、マスト  
 の 上に あがりました。  
 青い、青い、なみが 光って い  
 る 海。

やがて、かもめの きょうだいが のった 大きな  
 白い ふねは、日本の、みななどを はなれて いきました。

七 にわとり

(一) にわとり

わたしの やった えさ  
 を、にわとりが ならんで  
 たべて います。  
 三ばが はねを くつつ  
 けて、コッココツコツと く





ちばしを うごかして います。

三ばが かわる がわる 水を のんでは、上を む  
いて、いそいで くちばしを うごかします。

のんだ あとは、なにか 考えるように くびを ま  
げます。

とりごやには、日が いっぱい あたって います。  
わたしは 弟の おもりを しながら、にわどりを  
みて います。

(三) トロツコ

レールの 上を

つぎつぎに くる

トロツコ、

土を つんだ おもい

トロツコ。

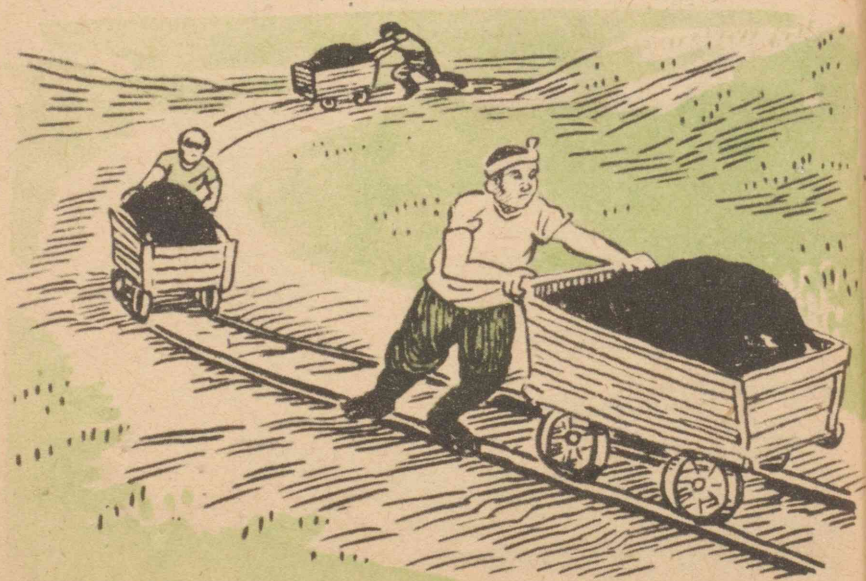
あせを ながしながら、

ちから 一ぱい

おして くる。

こわいような かおを

して おして くる。

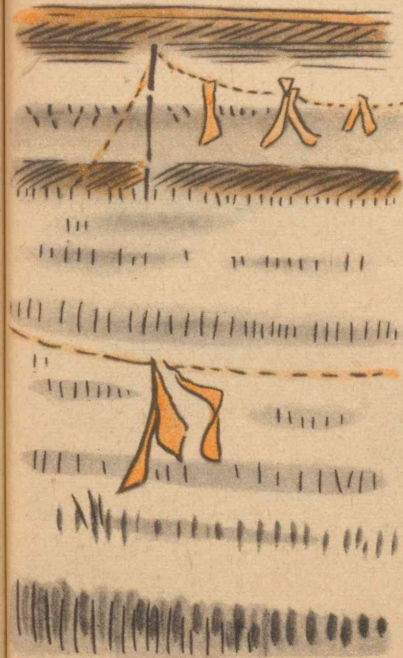




わたしたちの まえへ  
こちらを むいて、  
にっこり わらった。  
くろい かおだった。

(三) なえとり

じゃぶ じゃぶ  
じゃぶ。  
なわしろの 中で、  
おとうさんも



おかあさんも  
なえとりです。  
風が ふいて、  
みどりの なえが  
きれいです。  
たんぼに はいる  
水が、  
ごぼごぼ なって  
います。





八田うえ

きょうは うちの 田うえです。わたしは おむすび  
とおちやを もって、あきらさんと たんぼへ いき  
ました。小犬の しろも ついて きました。あきらさ

んの おかあさんも、手つだいに きて  
います。みんなで 八人、あみがさを  
かぶり、一れつに ならんで、うたを  
うたいながら、田うえを して います。



むこうの 方から にいさんが、なえ  
を なえかごに 入れて、かついで き  
ました。そして、なえたばを たんぼの  
あちら こちらへ、ぽんぽんと ながて  
くばりました。となりの おばさんが、  
「はい、ごくろうさま。」

と 行って、うけとりました。みんなは、  
うけとった なえを、じょうずに うえ  
て いきます。たんぼには、みどりの  
なえが、だんだん ひろがって、風に そよそよ ゆれ



て います。

あきらさんが、

「おむすびを もっ

て きました。」

と いうと、

「はあい。」

と いうて、みんな いっしょに こちらを むきまし

た。しろが わんわんと ほえました。

すぐ となりの たんぼでは、麦わらぼうしをかぶつ

た おとうさんが、うまを つかって たがやして い

ます。おとうさんが とき とき、

「はいはい、どうぞ。」

と いうと、うまは げんきを 出して、くびを ふり

ふり あるいて いきます。

むこうの 方では、牛が はたらいて います。

雨が しとしと ふって きました。わたしは あき

らさんと いっしょに、しろを つれて、走って いえ

へ かえりました。

「げく、げく、げく、げく。」

かえるが 一どに なきだしました。





九、よぼうちゅうしゃ

(一)

きょうは 学校で、チフスの よぼうちゅうしゃが  
あります。

あさから、みんなが きょうしつで、

「ちゅうしゃは いたいよ。」

「いたくは ないよ。」

などと、いって いました。

まもなく 先生が おいでに  
なって、

「さあ、これから チフスの よ  
ぼうちゅうしゃが はじまりま

す。みなさん、ちゅうしゃは  
なぜ するのでしょうね。」

と、おききに なりました。

「チフスに かからないように  
するのです。」

と、よしおさんが いました。





「チフスが はやって くるからです。」

と、しげるさんが いいました。

「チフスが うつらないように するのです。」

と、ちよ子さんが いいました。

「チフスに かかっても、かるく すむように するの  
です。」

と、つる子さんが いいました。

先生は、

「なかなか よく しって いますね。それでは、チフ  
スって どんな びょうきでしょう。」

と おっしゃいました。

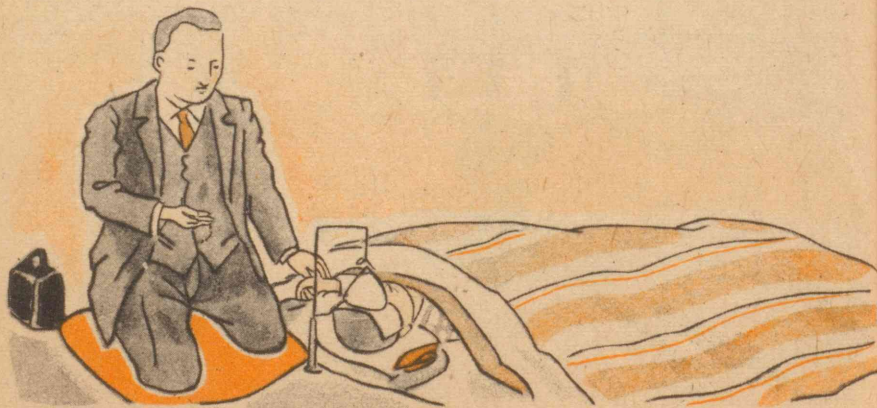
「チフスの ばいきんが、おなか  
に はいって、びょうきに な  
るのです。」

けい子さんが いいました。

「チフスは うつる びょうきです。」

ちよ子さんが いいました。

「チフスに かかると、高い 高  
い ねつが 出て、おしまい  
に は しんで しまいます。」





はるえさんが いました。

「そうです。みんな よく わかって いますね。チフ  
スは こわい びょうきで、これに かかると、じぶ  
んが あぶないばかりで なく、人に めいわくを  
かけます。」  
と おっしゃいました。

(二)

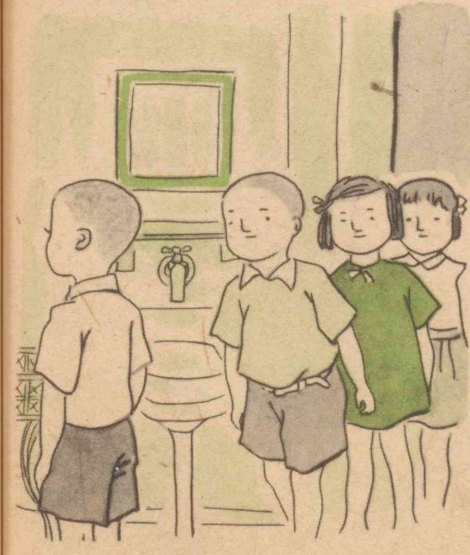
みんな ならんで、えい  
せいしつに いきました。

えいせいの 先生が、戸  
を あけて、

「さあ、したくが できま  
した。ひだりの うでを  
出して ください。」

と おっしゃって、みんな  
の うでを、アルコールで  
ふきました。

ふうんと はなを さす  
ようなにおいが しました。





おいしゃさんが ふたり きて、まっぺいいらっしや  
いました。



きよしさんと みよ子さん  
が、一ばん さきに ちゅう  
しやを するのです。  
おいしゃさんは、光った  
はりを、きよしさんの うで  
に さしました。  
はりを ぬくと、  
「さあ、できましたよ。ちゅう



も、つづいて ちゅうしやを して もらいました。  
あきらさんは ちゅうしやが すむと、  
「いたくないよ。ちくつと したただけだよ。」

うしやした ところを、よ  
く もんで くださいね。」  
と、やさしく おっしゃいま  
した。  
きよしさんは、へいきな  
かおで、もみはじめました。  
よしおさんも つる子さん



と、大きな声で みんなに しらせました。

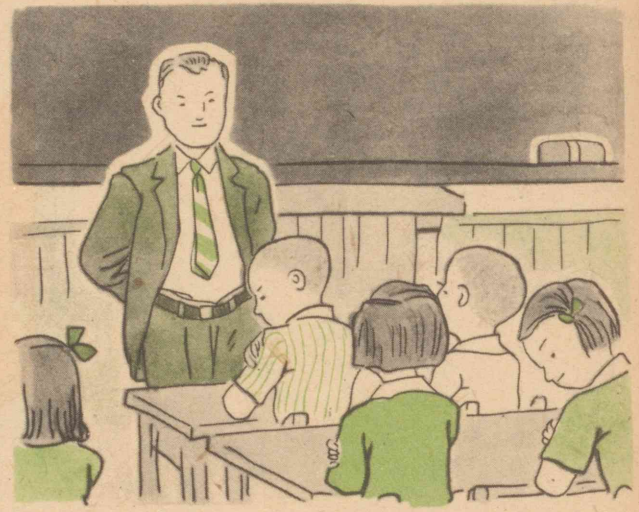
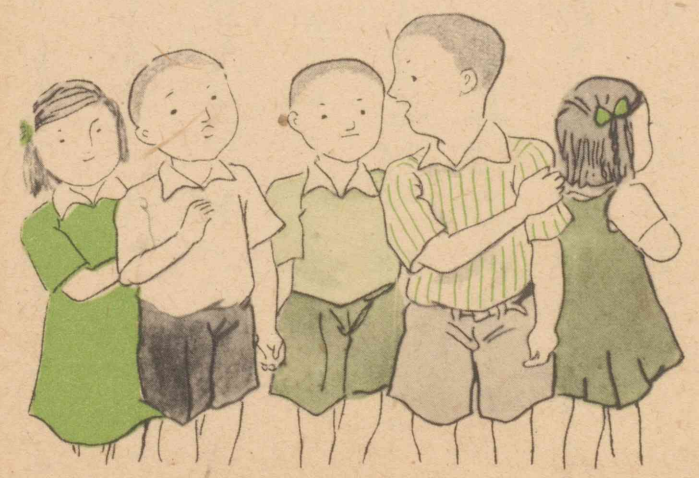
「ほんとに いたくないの。」

と、みんなが あきらさんに ききました。

「いたくないよ。ちくつと  
するだけだよ。」

と、あきらさんは「こたえま  
した。」

じゅん じゅんに、ちゅう  
しゃを して もらいました。

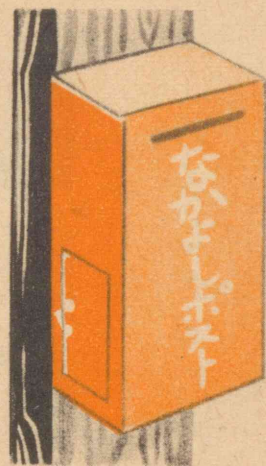


きょうしつに かえってから  
も、みんなは ちゅうしゃした  
ところを もみながら、わいわ  
い 話を して いました。

先生が、  
「どうでした。いたくはなかつ  
たでしょう。これで チフス  
が にげて いきますよ。」

と おっしやったので、みんな  
にここにこ わらいまし  
た。





十 なかよしポスト

きょうしつの はしらに、赤い  
ポストが かかって います。あきらさんたちが 作っ  
た もので、みんなが なかよしポストと 呼んでいます。  
いつも、手紙や はがきが たくさん はいって います。  
ます。お友だちや 先生に、お話ししたい ことが 書い  
て あります。

とうばんの 人が まい日 ひらいて、あてなの 人  
に くばります。

きょうは、あきらさんが とうばんです。あきらさん  
は、にこにこしながら みんなに くばりました。  
その 中に、こんな手紙が ありました。

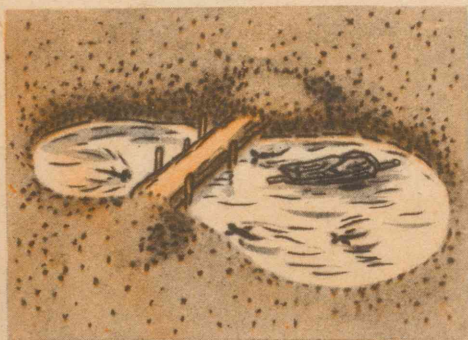
よし子さん、こん日は。

あした うちへ いらっしやい。ま

た、いけを ほって あそびましよう。

こんどは ひょうたんがたに して、

まん中に はしを かけましよう。





いけで めだかを およがせたり、ささぶねを うかせ  
たり しましう。さようなら。 まさお



よしおさん、けさ つくえの ふたを あ  
けた とき、ゴムまりが はいって いたで  
しう。

あれは、きのう わたしが ひろったのです。  
どうばんが すんで かえる とき、うんどうばの す  
みっこに、ころがって いました。「いのうえ よじお」と  
なまえが 書いて あったから、すぐ わかりました。

これからは、おとさないように 気を つけて くだ  
さい。 みつ子

あきらさん、きのうは お手

紙 ありがとうございました。

わたしの 作文は、そんなに  
よかったですしうか。

あれは、わたしが 妹の み  
よちゃんど あそんだ ことを  
そのまま 書いたのです。





おかあさんにも みて。いただきました。おかあさんは、  
「いつも みよちゃんど あそんで くれるから、こん  
ないい 作文が できたのね。」  
と 言って、ほめて くださいました。  
わたしは これからも、あそんだ ことや、お手つだ  
いした ことや、いろいろな ことを、たくさん 作文  
に して みたいと 思います。できたら また 読ん  
で くださいね。

とし子

先生、きょうの リレーは ゆかいでした。

みつおさんは、とても は  
やく なりましたね。ぼく、  
おどろいて しまいました。  
もう すこしで おいこされ  
そうでした。

先生、また リレーを さ  
せて ください。 ひろし



みなさんへ—

このごろの がっきゆうとうばんは、どの くみも、



よく できるよりに なりました。

あさは 早く きて、まどを きちんと あけ、おけ  
いこの よういも うまく できて います。

きゆうしよくの おせわも、じょうずに なりました。  
かえりの あとしまつも、わすれる 人が なくなり  
ました。

がっきゆうどうばんは、おかあさんの しごどのよう  
に、目だたない ものですね。

みなさん、どうばんの 人におれいを いいませう。

先生から

十一 なつやすみに なったら

たのしい なつやすみが

ちかづきました。

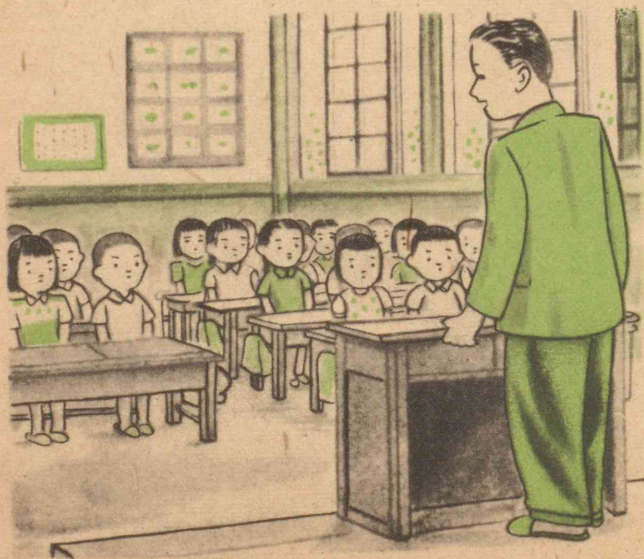
先生が、

「もう すぐ なつやすみ」

が きますね。なつやす

みに なったら、どんな

ことを しようと思





ますか。」

と、おききになりました。

みんなは、うれしそうに

なんと こたえて よいか

かおを みあわせましたが、

わからなくて、だまって

いました。

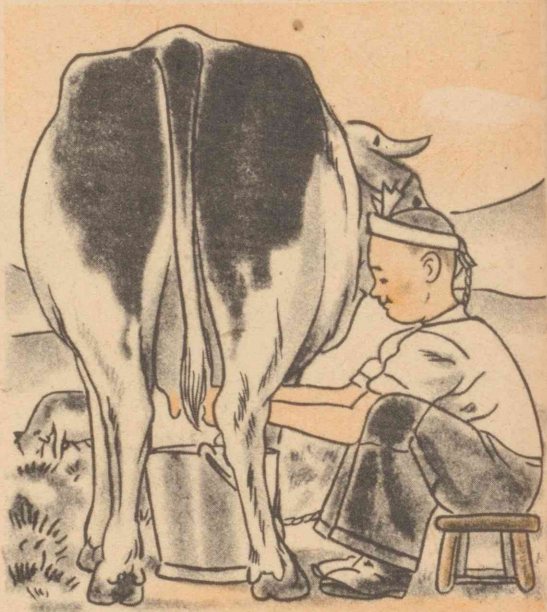
そのとき、あきらさんが、

「先生、ぼくは、ことしも

ねえさんと きしやに

のって、おじさんの う

ちへ いきます。そこは



まわりが 高い 山です。

おじさんは、まいあさ

牛の ちちを しぼりま

す。ぼくたちは、その

ちちを のむのが たの

しみです。」

と いました。

こんどは、ちよ子さんが いました。

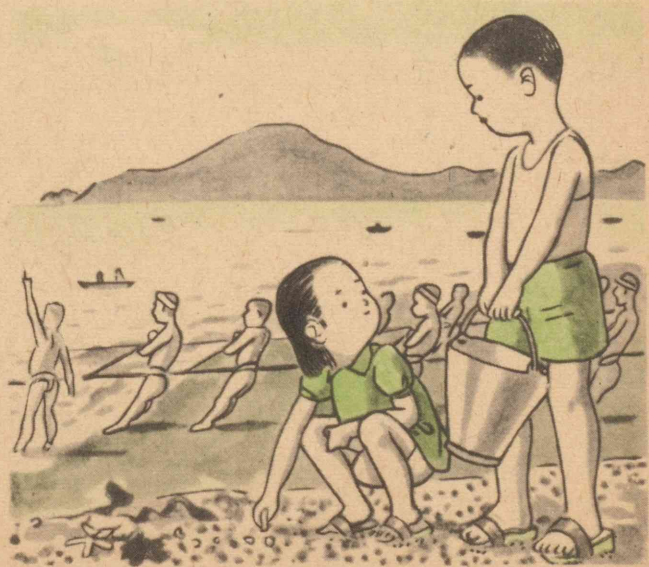
「わたしは、にいさんと、おばさんの うちへ いきま

す。おばさんの うちの まえは、すぐ 海です。





はまでは りょうしの  
おじさんたちが、まい日  
じびきあみを ひきます。  
いろいろな さかなが  
とれます。わたしは き  
れいな 海の 石や、か  
いがらを あつめて、も  
って かえります。  
ふたりが 話しはじめたので、みんな つぎつぎに  
思った ことを 話しました。



しげる 「ぼくは、うらの 竹やぶの  
竹で、水でつぼうを 作って  
あそぼうと 思います。」  
みよ子 「うちでは、あかちゃんが う  
まれるので、ねえさんと お  
手つだいを します。それが  
ら、あさがおの につきを  
書きます。」  
たかし 「ぼくは、にいさんに およぎ  
を おしえて もらいます。」

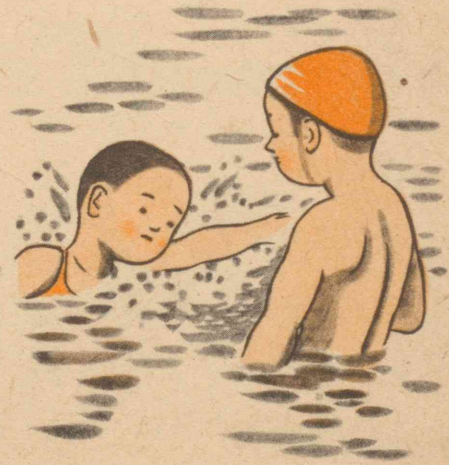
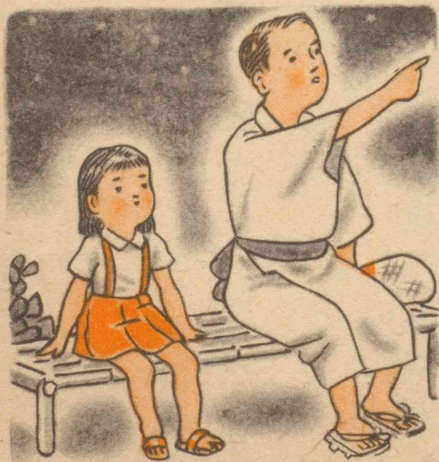


にいさんは、クロールが  
できるようになったの  
で、じまんして います。  
きよし 「ぼくは、まい日、うさぎ  
や にわとり に えさを  
やります。それから、す  
きな 本を、たくさん  
読んで みようと 思っ  
て います。」

みつ子 「わたしは、きりぎりすを

かごの 中で かって  
みます。」

のぼる 「ぼくは、まい日のお天  
気を しらべます。ぼく  
の 天気よほうと、ラジ  
オの 天気よほうと、く  
らべて みる、つもりです。」  
つる子 「わたしは、夜、おとうさ  
んに、星の なまえを  
おしえて いただいたり、





星のお話をきこうと 思っています。

先生は、ここにこしながら、

「たいへん じょうずに お話が できました。まだ  
ほかに、いろいろ あるでしょう。心に 思っ  
いても、口に 出して いうのは、なかなか むずか  
しい ものです。なつやすみには、じぶんの したい  
と 思うことを、たのしく つづけて やって みる  
しょう。そして 九月には、まっ黒な かおに なって、  
げん気よく あつまりましょね。」  
と おっしゃいました。

## 十二 おむかえ

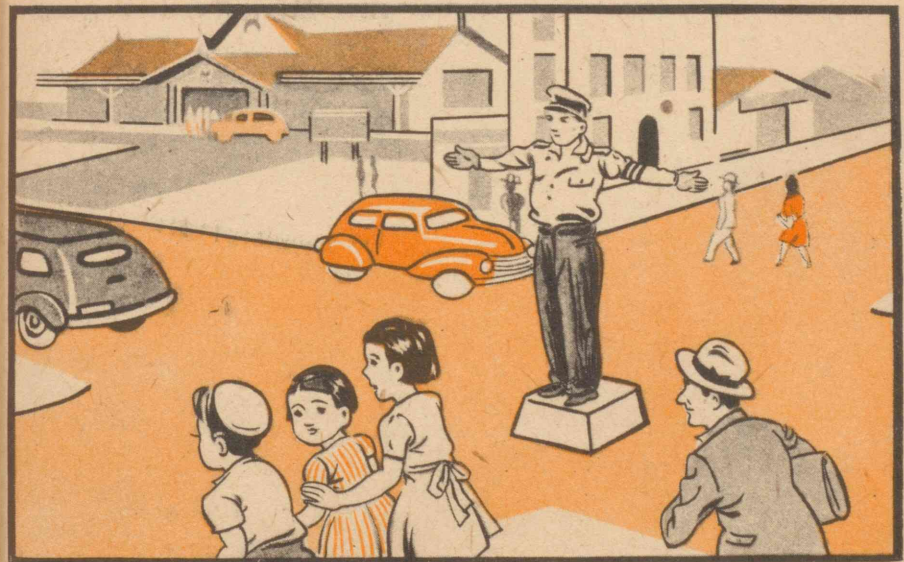
かいしゃの ようじで、とうきょうへ おいでになつ  
た おとうさんが、きょう おかえりに なります。ぼ  
くは ねえさんと、妹の きよちゃんを つれて、えき  
へ おむかえに いきました。

おとうさんの のって いる きしゃは、ごご 三じ  
に つきます。ぼくたちは、すこし 早く いえを 出  
ました。



大どおりへ 出て、しば  
らく あるいて、いくと、  
えきの 大きな たてもの  
が みえ出しました。ぼく  
も、ねえさんも、きよちゃ  
んを ひっぱるように し  
て、いきました。

えきまえの 四つかどは、  
いったり きたり する  
人や 車で いっぱいです。



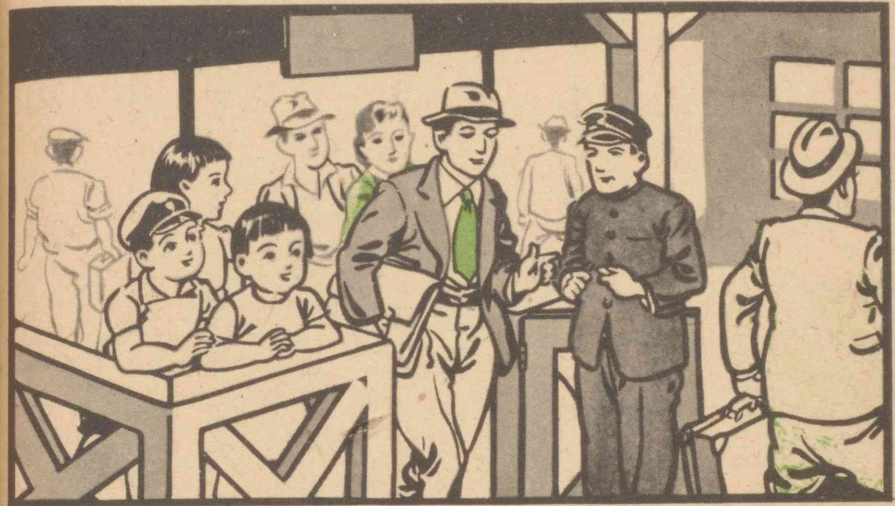
だいの 上では、こうつうせいの おまわりさんが、  
ふえを ふいて、「ゴー、ストップ」の あいずを して  
います。ストップなので、ぼくたちは とまりました。

「ピリ、ピリ、ピリ。」

おまわりさんが くるつと むきをかえて、ふえを  
ふきました。手ぶくろを はめた 白い 手を、大きく  
ふりました。まっぴい た ぼくたちは、いそいで わ  
たりました。

えきの 中へ はいると、かばんを かかえた 人や、  
トランクを さげた 人が たくさん いました。なら





んで きつぷを かったり、パ  
チン パチンと きつぷを 切っ  
て もらったり して、とても  
いそがしそうです。

ぼくたちは、かいさつ口の  
ちかくで まって いました。

「ポーツ」と、とおくの方で  
音が しました。

「きしやが くるよ。」

ぼくは 妹に いいました。

ゴーゴーゴーと じびびきを たてて、きしやが  
えきの方へ ちかづいて きます。

かくせいきから、大きな 声が ながれて きます。

ホームには、人が いっぱい ならんで います。

みて いる うちに、長い 長い きしやが、ホーム  
へ すべりこんで きました。

シユウ シユウ シユウ。

きかんしゃが、白い ゆげを はきながら とまりま  
した。にもつを もった 人たちが、どやどやと おり  
て きました。ぼくたちは せのびを して、おとうさ



んを さがしました。

「あ、おとうさんだ。」

大きなにもつを もつ

た 人の うしろに、おと

うさんが みえます。

「おとうさんだ、おとうさ

んだ。」

ねえさんも、きよちゃんも、すぐ みつけました。お

とうさんは、りょう手に、大きな かばんと ふろしき

づつみを さげて いらっしやいます。

「やあ、むかえに きて くれたの。ごくらうさま。」

「おとうさん、おかえりなさい。」

「おかえりなさい。」

ぼくは かばんを もち

ました。ねえさんは つつ

みをもちました。きよちゃ

んは おとうさんに 手を

ひいて もらいました。

みんな そろって かえ

りました。





十三 とべた 子すずめ



ある いえの のきさきに、すず  
めの すが ありました。その 中  
に、かわいい 子すずめが 三ば  
いました。

気もちの よい あさ、おかあさ  
んすずめが、三ばの 子すずめに  
いいました。

「さあ、おまえたちは、もう だいぶ はねが しつか  
りして きたから、きょうは とぶ おけいこを し  
ましよう。」

子すずめたちは、とぶ おゆるしが 出たので、みんな  
な 大よろこびです。

ねえさんすずめは、

「わたしは、あの にわ石の むこ  
うの 花の ところへ とんで  
いこう。チュツ チュツ。」  
と 行って、まっさきに とび出し





て、きくの 花の そばへ いきました。

にいさんすずめは、

「ぼくは、もつと むこうの たんぼまで とんで い  
くんだ。チュツ チュツ。」

と 行って、いきおいよく ぱつと とび出しました。

ところが、あとに のこった 弟すずめは、あまえな  
がら、

「おかあさん、ぼく まだ とべないよ。」

と 行って、とぼうとは しません。

おかあさんは、

「さあ、げんきを 出して、とんで ごらん。」

と いたしました。が、弟すずめは、よけい すの 中で  
小さく なるばかりです。

ねえさんすずめは うれし

くて たまりません。ぴよん

と とびあがっては、ちゅう

がえりを したり、花の 中

へ とびこんだり、くびを

ふって、しばふの 虫を つ

ついたり して います。





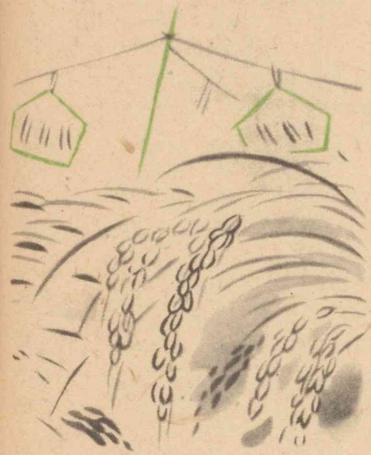
弟すずめは、ねえさんが たのしそうに あそんで  
いるのを、うらやましそうに みて いましたが、すこ  
しも うごこうとは しません。

やがて、二わの 子すずめは すに かえつて きて、  
むねを ふくらませながら、とくいそうに いました。

にいさんすずめは、目を くり  
くり させながら、

「おかあさん、むこうの たんぼ  
は、とても ひろいのですね。

お友だちが 大ぜい いました」



よ。いねの ほが たくさん  
ついて いるので、みんなは  
それを たべて いましたよ。

ぼくは いねの ほに おいし

そうな 虫が いるのを みつ

けて、たべようと したら、いねが すうっと まがっ  
たので、土の上に おちて しまいました。その と  
き、からん からんと 大きな 音が したので、む  
ちゆうに なつて にげて きました。」

と いました。そうして、弟すずめに、



「おまえは、どこへ いったの。」

と ききました。弟すずめは、はずかしそうに 小さく  
なって いました。

ところが、おかあさんが そとへ 出た あとで、に  
いさんすずめは、

「さあ、おまえも げんきを 出して、とんで おいで  
よ。」

と いました。そして、ねえさんすずめが しんぱい  
するのも かまわず、弟すずめを むりやりに すから  
おし出して しまいました。

弟すずめは、ぱさつと にわに おちました。

からだを ふらふらさせながら、すへかえろうと  
しきりに もがきましたが、どうしても とべません。

そのうちに げんきが なく  
なって、かなしそうに なき  
出しました。

にいさんすずめは、おもし  
ろがって、

「ここまで おいで、ここま  
で おいで。」





じりじりと ちかより、いまに  
 も とびかかろうと しました。  
 きゆうに、ぱさぱさと は音  
 が して、くろねこに ぶつかっ  
 て いく ものが あります。  
 それは、おかあさんすずめで  
 した。  
 くろねこは はっと おどろ  
 いて、うしろへ とびのきまし  
 た。おかあさんは、なおも 一



と はやしたてました。  
 その ときです。大きな く  
 ろねこが、弟すずめを 目がけ  
 て、そつと ちかづいて きま  
 した。  
 にいさんすずめと ねえさん  
 すずめは、びっくりして、声を  
 かぎりにおかあさんを よび  
 ました。  
 くろねこは、目を 光らせて、



しょうけんめい とびかかりながら、  
「さあ、げんきを 出して、早く、早く。」



と、大声で  
いいました。  
弟すずめは  
むちゆうに  
なって、ちか  
ら一ぱい  
はねを うご  
かしました。

とべた。  
とべた。

のきさきよりも、やねよりも、すぎの 木よりも、高  
く高く とべました。

おかあさんすずめも、すぐ とびたって、あとを お  
いしました。

すの 中では、にいさんすずめと ねえさんすずめが、  
「とべた。とべた。チュッ チュッ」  
と、うれしそうに なきました。





おけいこの手びき

一 うれしい 二年生

- (1) あきらさんたちは、二年生に なって  
うれしいことが たくさん あります。  
どんな ことが うれしかったか、よく  
よんで みましよう。
- (2) きょうしつの 中には、どんな あたし  
らしい ものが ありますか。
- (3) 一年生を みて、みんなは どんな  
ことを かんがえましたか。
- (4) みなさんも 二年生に なって、うれし  
い ことが たくさん あるでしょう。  
それを かいて みましよう。

二 わたくしたちの まち

- (1) しげるさんと きよしさんは、どんな  
みなさんも、あきらさんたちのように  
して あそんで ごらん下さい。

五 どうぶつえん

- (1) どうぶつえん えんには、どんな もの  
が かいて ありましたか。
- (2) あきらさんたちは、どうして どうぶつ  
えんに いこうと 思いましたか。
- (3) どうぶつえんで みたものを、じゅんじゅん  
に お話して ごらん下さい。

六 かもめの ふなで

- (1) おかあさんは、アメリカの みやげに  
なにが ほしいと いいましたか。
- (2) お話を たくさん よんで、みんなに  
話して あげましよう。

七 にわとり

- (1) ふつうの 長い ぶんど、みかたや、

いいあいを しましたか。

- (2) あきらさんたちは、わたくしたちの  
まちを つくる とき、どんな ものを  
いれようと そうだんしましたか。
- (3) みなさんも よく はなしあって、じゅんじゅん  
の まちや むらを つくって みま  
ましよう。

三 おまわりさんの 話

- (1) おんなの おまわりさんの 話を よんで、  
どう 思いますか。
- (2) みなさんは、学校から かって、ど  
んな ところで あそびますか。

四 子どもの 日

- (1) 子どもの 日は、いつですか。

かんじかたが かわって います。ど  
んな ところが、一ばん かわって いる  
と 思いますか。

- (2) 一いきずつ、みじかく きて かく。  
かんじた ことを おもに かく。いら  
ない ことばは つかない。みたまま、  
きいたまま、思ったままを、じゅんじゅん  
の ことばで そのまま かくのです。

八 田うえ

- (1) この 文の 中には、だれとだれが  
いますか。なにを して いますか。
- (2) 田うえを みたり、手つだったり し  
た ことを お話ましよう。
- (3) 麦かりや、たねまきや、なえの うえ  
つけなどで、みたり 手つだったり し  
た ことを お話ましよう。



ア イ ウ エ オ  
 カ キ ク ケ コ  
 サ シ ス セ ソ  
 タ チ ツ テ ト  
 ナ ニ ヌ ネ ノ  
 ハ ヒ フ ヘ ホ  
 マ ミ ム メ モ  
 ヤ イ ユ エ ヨ  
 ラ リ ル レ ロ  
 ワ キ ウ エ ヲ  
 ン



ガ	ガ	ダ	ザ	ガ
ギ	ギ	ヂ	ジ	グ
ゲ	ゲ	ヅ	ズ	ゲ
ゴ	ゴ	デ	ゼ	ゴ
		ド	ゾ	
バ	バ			
ピ	ビ			
プ	ブ			
ペ	ベ			
ポ	ボ			

キ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ	ギ	ジャ	ヂ	ビ	ピ
ク	ク	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ	グ	チャ	ヂ	ビ	ピ
ケ	ケ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ	ゲ	ジャ	ヂ	ビ	ピ
コ	コ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ	ゴ	チャ	ヂ	ビ	ピ

九 よぼうちゅうしゃ

- (1) あなたは、これまでに、どんな よぼうちゅうしゃをしましたか。
- (2) チフスに かからないように するに は、どんな ことを つけたら いいでしょう。

十 なかよし ポスト

- (1) あなたは、いまままでに だれから 手紙を もらいましたか。だれに 手紙を 出しましたか。
- (2) ことばづかいを しらべましょう。お友だちへ 出す ときの ことば。先生や、としいえの 人に 出す ときのことば。

十一 ぼくの なつやすみ

- (1) なつやすみに、どんな ことを しよう

うと 悪いですか。

- (2) した ことを、はっきや 手紙に 書きました。

十二 おむかえ

- (1) えきに つくまでの ことを お話ししましょう。

- (2) きしゃが ついてからの ことを お話ししましょう。

話しましょう。

十三 とべた 千すずめ

- (1) おかあさんすずめが、とんで ころんなさいと いった とき、弟すずめはどう しましたか。
- (2) くらねこが、とびかかろうと したとき、おかあさんは どうしましたか。
- (3) えを みて、その ときのお話を して みましょう。



どがらせ(て)	22	はやし(て)	110	むりやりに	108	リレー	84
どうぶつえん	41	はばとび	52	むすん(て)	57	リボン	57
天気よほう	93	はいきん	73	麦わらぼうし	68	りっぱに	18
手つだい	66	のきさき	102	水てつぼう	91	らくだ	43
つる	49	ねびえ	58	まっさきに	103	らいねん	39
つごうよく	53	ねたり(ます)	36	マスト	55	よろしく	57
ちようめん	33	にわ石	103	まえあし	52	よぼうちゆうしゃ	70
ちゆうしゃ	70	なわしろ	64	ほめ(ました)	37	四つかど	96
ちゆうがえり	37	なえとり	64	ポスト	80	ゆうびんきょく	15
竹やぶ	91	なえたば	67	べんきょう(しましよ)	11	やくば	14
だきおこし(ました)	25	なえかご	67	ペリカン	49	もみはじめ(ました)	77
たがやし(て)	68	トロッコ	62	ふるしきづつみ	100	もみじ	37
田うえ	66	トランク	97	ふなて	54	もがき(ました)	109
ぞろぞろ	10	どびのき(ました)	111	ひょうたんがた	81	目だた(ない)	86
そよそよど	11	どくい(そうに)	13	はやっ(て)	72	目がけ(て)	110
ぞう	41	とびがかり(ながら)	112	火のみやぐら	16	めいわく	74

あいず(しました)	65	おまわりさん	19	くちばし	62	さなぶね	82
あひる	49	かいさつ口	98	くつつけ(て)	61	四かくな	42
あまえながら	104	かくせいき	99	くじやく	46	下じき	25
アルコール	75	かざろ(う)	7	くみあつて	39	しばふ	105
いかり	54	がっきゅうどうばん	85	クロール	92	しばらく	56
いばっ(て)	43	かなあみ	48	けいこ	29	じびきあみ	90
妹	83	かも	49	けもの	42	しらべ(て)	17
うけとり(ました)	67	カレンダー	8	小犬	66	すいへいふく	56
うなずい(て)	36	カンガル	50	こうつうせいり	97	すなはら	53
えいせいしつ	74	きつぶ	98	こしらえ(たり)	8	すべりこん(て)	99
えきまえ	96	きてき	59	子どもかい	31	すみっこ	82
えんがわ	86	きょくげい	42	ゴムまり	82	せいたかのつば	51
おいかけごこ	47	きりぎりす	92	さいく	35	せんしゆ	52
おし出し(て)	108	きりん	43	さか	14	せんちようさん	55



あたらしく 出た おもな ことば



夜 (93)	方 (67)	黒 (59)	書 (30)	道 (15)	生 (4)
星 (93)	麦 (68)	光 (60)	出 (31)	作 (16)	学 (4)
心 (94)	牛 (69)	水 (62)	読 (33)	話 (19)	校 (4)
切 (98)	走 (69)	考 (62)	本 (41)	思 (19)	先 (8)
音 (98)	妹 (83)	弟 (62)	文 (45)	口 (22)	戸 (8)
虫 (105)	石 (90)	土 (63)	友 (46)	車 (25)	声 (9)
	竹 (91)	田 (66)	小 (46)	気 (27)	春 (11)
	天 (93)	犬 (66)	海 (57)	紙 (30)	長 (15)

文を作った人

- 六 かもめの ふなで………相良和子  
 十三 とべた 子すずめ………佐藤茂雄  
 ほかの 文は、へんしゅうぶと、  
 じどうのもの。

えをかいた人

- 新井五郎 川上四郎  
 沢井三郎 鈴木壽雄  
 高橋庸男 野水昌子  
 長谷川露二 藤沢龍雄  
 伏石繁男 山上喜司  
 六郷好見

こくこの本 三(小学校第二学年前期用)

昭和二十五年一月二十五日印刷  
 昭和二十五年一月三十日発行  
 (昭和二十四年十月十日 文部省検定済)

定価三十八円

著作者

- 西原慶一 泉 節二  
 山下正雄 飛田多喜雄  
 小山玄夫 齋田 喬

発行者

- 東京都北区稻付町一丁目二三番地  
 二葉図書株式会社  
 代表者 大野 治 輔

印刷者

- 東京都北区稻付町一丁目一〇八番地  
 二葉印刷株式会社  
 代表者 大野 治 輔

発行人

- 東京都北区稻付町一丁目二三番地  
 二葉図書株式会社

Approved by Ministry  
 of Education  
 (Date Oct. 14, 1949)





なまえ

広島大学図書

広島大学図書

0130449964



二葉図書株式会社

文庫

49

964